



豊里

### 昔懐かしの駄菓子に舌鼓打つ

「だかし屋カフェ」(登米市社会福祉協議会豊里支所主催)は4月22日、豊里高齢者趣味の交流館で開かれ、子どもからお年寄りまで約250人が訪れました。  
だかし屋カフェは、地域の人々が世代を問わず気軽に集まれる場所をつくるのが目的。3回目の開催となった会場は、昔懐かしの駄菓子を頬張る子どもや、ピースプレスレットの手芸工作などを楽しむ高齢者などであふれ、用意された約30種類の駄菓子が完売するほどの盛況ぶりでした。

### 華やかな演目と満開の桜満喫

「平筒沼ふれあい公園桜まつり」(同実行委員会主催、今野秀俊会長)は4月20、21の両日、平筒沼youyou館周辺を会場に開かれ、家族連れなど多くの来場者でにぎわいました。  
館内の特設ステージでは、米山、豊里の両文化協会による舞踊のほか、野外では米山丸山太鼓による和太鼓の演奏や「郷友連合とめっきゅう」による、よさこいなどが披露。夜には公園の遊歩道沿いの桜がライトに照らされ、沼面に映し出された幻想的な桜が来場者を魅了していました。



米山



石越

### 児童とスタッフが楽しく交流

石越放課後子ども教室「初めましての会」は4月11日、石越小学校(小松祐治校長、児童196人)で開かれ、参加児童とボランティアスタッフが交流を深めました。  
初めましての会では、小松校長から「感謝の気持ちを忘れないこと」について話があり、参加児童とボランティアスタッフがそれぞれ自己紹介。みんなで写真撮影をした後は、遊具などで遊ぶ児童をスタッフが見守りながら、放課後の時間を楽しく過ごしていました。

### もっこり輪なげで皆にっこり

「第3回もっこり世界一の輪なげ大会」(さくらロード実行委員会主催、佐々木弘喜委員長)は4月14日、南方大嶽山交流広場公園で開かれ、約260人が参加しました。  
晴天の中、大人の部と小学生以下の子どもの部で熱戦が繰り広げられ、1位から3位までの入賞者には、登米市産の仙台牛や南方産米など、地場産の豪華景品が贈呈。中国から県内に嫁いできた皆さんによる踊りも披露され、参加者は楽しいひとときを過ごしていました。



南方



津山

### 太鼓と笛の音響かせ安全祈願

麻崎神社の春の大祭「つやま打囃子春祭り」(同保存会主催、林三治会長)は4月21日、柳津地区で開かれ、華やかな山車とともに柳津小、津山中の児童生徒と地域住民約30人が太鼓と笛の音響かせながら、地区内を練り歩きました。  
つやま打囃子は、戦争などの事情により一時途絶えましたが、1978年に保存会を結成して復活。交通安全や無病息災などを祈願しています。法被姿の子どもたちが通ると、沿道からたくさんの声援と拍手が送られました。

# 9 TOWNS TOPICS

9つのまちのホットな話題をお届けします



迫

### 春の海風に誘われ健康づくり

「スプリングハイクin大島」(北方公民館主催)は4月16日、休暇村気仙沼大島で開かれ、参加者28人が4月に開通したばかりの気仙沼大島大橋を使い、大島へ渡りました。  
今年で4回目となるスプリングハイクは、心身のリフレッシュや体力の維持が目的。当日は天候に恵まれ、春の海風を全身に感じながら、自然の中でハイキングを満喫しました。その後の昼食では、地元産の海産物に舌鼓を打ちながら会話が弾み、楽しい一日を過ごしていました。

### 桜を見ながらはっとを味わう

「春のはっと屋台村」(とよま振興公社主催)は4月20、21の両日、とよま観光物産センター「遠山之里」で開かれ、好天に恵まれたこともあり、家族連れなど多くの来場者でにぎわいました。  
はっと屋台村には、7軒の屋台が店出。油麩、すりみ、ニラなどの具材が入った、さまざまな味のはっと汁が振る舞われました。訪れた人は満開の桜の下ではっと汁を味わいながら、春の訪れを感じていました。



登米



東和

### 人命を救う市民の役割を学ぶ

「救命救急講習会」は4月19日、東和中学校(千葉純子校長、生徒117人)で開かれ、同校の2年生38人が参加しました。  
講習会は、市消防署東出張所の署員が指導。傷病者の命を救い、社会復帰に導くためには、現場に居合わせた市民の行動が大切であることを学び、心肺蘇生法とAEDの使用方法について実技講習を受けました。生徒は、真剣に講義に耳を傾け、実技の習得に励んでいました。

### 絵手紙教室で春の訪れを描く

「浅水絵手紙教室」(浅水コミュニティ運営協議会主催、羽生進会長)は4月17日、浅水ふれあいセンターで開かれ、13人が参加しました。  
同教室は毎月2回開催し、季節の花や日常の風景を描き、講師の指導を受けながら絵手紙を仕上げていきます。また、季節に合わせたイベントも実施され、当日はお花見とお茶会が催されました。参加者は丁寧に絵筆を走らせながら、訪れた春を色彩豊かに描いていました。



中田